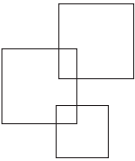


6月定例会では、6月14日から18日にかけて21人の議員が一般質問を行いました。紙面の都合により、1人1問の質問と答弁の要旨を紹介します。

なお、一般質問の様子は、太田市議会ホームページ「インターネット中継」からご覧いただくことができます。



移住・定住促進のための
取り組みについて



創政クラブ 高野 博善

議員 本市に移住した場合の金銭的なメリットについて伺います。

企画部長 東京圏からの移住者には、移住支援金制度を設けており、単身で60万円、世帯で100万円、18歳未満の人がいる場合は1人100万円が3人まで加算され、最大で400万円の支援を受けることができます。また令和5年度からは、まちなか住宅取得支援金制度を開始し、居住誘導区域に住宅を取得した場合には、移住支援金の他に10万円、18歳未満の人がいる場合には、20万円が加算され、30万円の支援金を受け取ることができます。

議員 道の駅おおたや尾島庁舎からJR籠原駅までの無料バスの運行や、鉄道会社と協力して特急りょうもう号を安く利用できる制度など、東京圏への通勤をサポートする取り組みも有効と考えますが、所見を伺います。

企画部長 現在、通勤補助制度はありませんが、熊谷駅までの路線バスや東武鉄道のりょうもう号を利用すること

で、東京圏への通勤が可能であることを積極的にPRしていきたいと考えます。また、議員より提案のあった籠原駅へのバスの運行については、さらなる移住の後押しになると考えますので、今後研究していきたいと思います。

議員 移住・定住者を増やすための取り組みについて、市長の所見を伺います。

市長 本市には、㈱SUBARUや関連企業など就業しやすい環境があり、転入超過を維持しています。行政としては、ソフト事業をできるだけ多く提供することで、太田市のイメージを高め、将来的に本市の価値が若者たちにも認知されるようにしていきたいと考えます。



学校給食について
— 給食時における黙食について —



参政党 仁藤 すぐる

議員 黙食を継続している学校が何校あるか、また子どもたちの心身に与える影響について伺います。

教育部長 現在、黙食を実施している学校はありません。また、黙食により食べることに集中することで時間的なゆとりができ、よくかんで味わって食べることができていたと考えます。

議員 依然として、給食中は話しくいと感じている児童生徒がいます。先日、給食の様子を見学した際には、横や後ろを向いて話す姿が見られ、私が行ったアンケートでも、多くの子どもたちが班で給食を食べることを望んでいますが、対面式給食の推進について所見を伺います。

教育部長 座席の配置は各学校により異なりますが、給食時には会話できる環境になっていると考えます。

議員 核家族化が進む中で、給食の時間は非常に重要と考えますが、給食に対する意見や感想の収集と給食運営への反映について、所見を伺います。

教育部長 各学校で担任や栄養士が児童生徒の思いをよく聴き、食に関する会話や交流が図れるよう、興味関心を高める食育指導を行っていきたいと考えます。



議員 学校給食に子どもたちの意見を積極的に取り入れることについて、教育長の所見を伺います。

教育長 限られた給食時間の中で、児童生徒の発達段階に応じて、まずは給食を味わい、しっかりと食べることが大切だと考えます。子どもたちから意見が出たときには、話をよく聴き、理解を得ながら進めるよう伝えていきたいと思います。

■その他の質問
・給食残渣に関する取り組みについて



本市の樹木・雑草の管理について
— 街路樹の管理について —



市民ファーストの会 大川 敬道

議員 エアリスホール前の道路、市道1級42号線の過去5年間の倒木本数と、街路樹による事故件数について伺います。

行政事業部長 倒木本数は、令和元年度から5年度までの5年間で13本でした。また、事故件数は1件で、賠償金額は14万9,661円でした。

議員 大きく成長したケヤキの住民への影響について伺います。

行政事業部長 3年度に陳情書が提出され、伐採9本、基本剪定28本を実施しました。その後、要望などはないことから、現状では問題ないと考えます。

議員 ケヤキが成長し、台風などによる倒木の危険性もあるかと思いますが、低木化の予定について伺います。

行政事業部長 倒木の危険性を減らすため、継続的に剪定やパトロールを行っていききたいと考えます。

議員 ケヤキ並木の歩道では、根が張り出して歩きにくい状況になっていますが、街路樹管理について所見を

伺います。

都市政策部長 危険箇所は関連部署と協議しながら、補修などの対応をしていきたいと考えています。

議員 歩道の悪化や倒木の危険性があることから、街路樹の改善が必要と考えますが、市長の所見を伺います。

市長 当時は景観の良いケヤキ並木にしようと植樹されたものだと思いますが、大きく成長し支障が生じている状況です。全てを伐採や伐根することは困難であり、人家の付近など危険な場所から順次伐採や伐根を検討する必要があると考えます。



■その他の質問
・市有施設の雑草の管理について



認知症と向き合う
「幸齢社会」の実現について



立憲民主党 岩瀬 僚

議員 認知症サポーターの役割と課題について伺います。

健康医療部長 認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を正しく理解し、本人とそのご家族の応援者になっていただくものです。養成講座を受講することで認定されるもので、昨年度は11回開催し、約440人に受講いただきました。新規サポーターを養成するとともに、サポーターが地域で活躍できるよう、さらなるステップアップにつなげることが課題となっています。

議員 地域で暮らす認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターの活動を結びつける、チームオレンジの取り組みが始まっていますが、本市におけるチームオレンジの立ち上げについて所見を伺います。

健康医療部長 本市での実績はありませんが、今後も新たなサポーターの養成と、それに続くステップアップ講座の開催を継続しながら、チームオレンジ

の立ち上げを目指していききたいと考えます。

議員 チームオレンジの立ち上げについて、市長の所見を伺います。

市長 認知症高齢者を社会全体でどのように支えていくのかは、非常に大きな問題になっていくと思います。その中で、認知症サポーターが力を発揮する時代を迎えると考えますが、現状では認知症サポーターの活動が知られていないことから、今後認知症サポーターの役割や活動を顕在化させていくことが行政の役割であると思います。



■その他の質問
・無料学習支援による「教育格差」の解消について